

PRSのねらいと記入法

PRSは、LDの子どもを短時間に、かつ適切に発見し、よりよい教育を行うためのスクリーニング・テストです。

学習経験の不足した子ども、潜在能力の劣った子どもを見つけることを意図しているではありません。

このテストは、全部で24項目あり、5つの領域に分かれています。

- I 聴覚的理解と記憶
- II 話しことば
- III オリエンテーション
- IV 運動能力
- V 社会的行動

1. 評価は、5段階尺度で行います。3が平均で、1と2は平均以下、4と5は平均以上です。つまり、1が最も低く、5が最も高い評価になります。

子どもの能力の段階に最もよく当てはまると思われる番号を■に記入してください。

2. 評価をするときには、ある項目では上手にできるけれども、ほかの項目ではそうではない、ということに注意して行ってください。

また、勉強ができるからスポーツもできる、というように行動を類推することはしないでください。

大切なのは、各質問に基づいてのみ評価をすることです。質問は1項目ずつ別個に考えて、順次もれなく評価してください。

3. 評価をできるだけ確実に行うためには、必ず手引をよく読んで、評価する前に子どもをよく観察してください。
4. 一度に30人以上の子どもの評価はしないでください。多人数を同時に評価すると、信頼性が下がる危険性があるためです。

I 聴覚的理解と記憶

単語の意味を理解する力

- 同学年の子どもと比べて、単語の理解力がとても未熟である。
- 簡単な単語の意味がつかめない。〔(同学年の子どもと比べて、単語の意味を取り違えやすい。〕〕
- 同学年の子どもが使う単語をよく理解している。
- 同学年の子どもが使う単語をよく理解しているだけでなく、その年齢以上の子どもが使う単語の意味も理解できる。
- 単語の理解力が優れている。〔(多くの抽象語を理解できる。〕〕

指示に従う能力

- 指示に従うことができず、そのつどまごつく。
- 普段は簡単な指示に従えるが、しばしば周囲の者の手助けを必要とする。
- 聞き慣れた指示や、複雑でない指示には従うことができる。
- 同時に言われた複数の指示を理解して、それに従うことができる。
- 指示された内容がわかって、それに従うことが非常にうまくできる。

クラス(集団の中で)での話し合いを理解する能力

- クラスでの話し合いについていけず、また、理解することもできない。〔(いつも注意がそれている。〕〕
- 聞いてはいるのだが、よく理解できない。〔(しばしば注意がそれている。〕〕
- 同学年の子ども相応である。〔(話し合いに加わることができ、それについていける。〕〕
- クラスでの話し合いをよく理解できる。〔(話し合いから何かを得ているようだ。〕〕
- クラスでの話し合いに積極的に参加する。〔(話し合いの内容にすばらしい理解を示す。〕〕

情報を記憶する能力

- ほとんどの場合、思い出せない。〔(記憶力が貧弱である。〕〕
- 何回も繰り返されると、簡単な事柄や手順は覚えられる。
- 同学年の子ども相応である。〔(物事の記憶力は特に問題はない。〕〕
- いろいろな情報を覚え、時間がたってからでもよく思い出せる。
- 記憶は細部にわたり、その内容も確かである。

II 話しことば

ことばの数(語彙)

- 同学年の子どもと比べて、いつも幼稚なことばを使い、ことばの数も少ない。
- 語彙は単純な名詞に限られ、描写的なことばをあまり使えない。
- 同学年の子ども相応の語彙をもつ。(特に問題はない。)
- 同学年の子ども以上の語彙をもつ。(正確なことばや描写的なことばを多く使える。)
- 同学年の子どもより高いレベルの語彙をもつ。(いつも正確なことばを使い、抽象的な事柄を言い表せる。)

文法

- 助詞の「て・に・を・は」や、現在・過去などが明確でない話し方をする。
- たびたび文法的に誤りの多い不完全な話し方をする。
- 正しい文法を使って話す。(助詞の「て・に・を・は」や、動詞の時制、代名詞の誤りなどは、同学年の子ども相応である。)
- 同学年の子ども以上の話しことばを使う。(文法的な誤りはめったにない。)
- いつも文法的に正確なことばで話すことができる。

ことばを思い出す能力

- 場面にあつた的確なことばを思い出すことができない。
- 考えていることを話すとき、たびたびことばに詰まる。
- 同学年の子ども相応である。(ときには、正しいことばを選んでしゃべろうとする。)
- 同学年の子ども以上のことばを思い出す能力がある。(ことばに詰まることはめったにない。)
- いつも上手に話す。ことばを思い出す能力は非常に高い。(決してことばに詰まったり、間違えたりしない。)

経験の語り能力

- 人が聞いてわかるように話をすることができない。
- 筋道を立てて経験を述べるのが難しい。
- 同学年の子ども相応に経験を話すことができる。(特に問題はない。)
- 同学年の子ども以上の能力をもつ。(筋道を立てて経験を述べることができる。)
- 非常に優れている。(理路整然とした方法で経験を述べるのがうまい。)

考えを表現する能力

- 個々の事実を関係づけて述べるのができない。
- 個々の事実を関係づけて述べるのが難しい。(考えが不完全ではらばらである。)
- 同学年の子ども相応である。(事実を意味のあるものとして関係づけて述べるができる。)
- 同学年の子ども以上の能力をもつ。(事実と自分の考えをうまく関係づけて述べるができる。)
- 非常に優れている。(いつも事実を適切に関係づけて、自分の考えを述べるができる。)

III オリエンテーション

時間の判断

- 時間の意味そのものがわからず、いつも遅れたり、まごついたりする。
- 時間の観念は少しはあるが、ぐずぐずしたり、しばしば遅れたりする。
- 同学年の子ども相応である。〔時間の判断などの能力は特に問題はない。〕
- 同学年の子どもと比べて、時間の判断が機敏にできる。〔遅れるときには常に正当な理由がある。〕
- スケジュールをうまくこなす。〔うまく計画し、とりまとめることができる。〕

土地感覚

- 方向感覚が悪く、学校(園)、校庭、隣近所でいつも迷ってしまう。
- 比較的慣れた場所でも、たびたび道に迷ってしまう。
- 同学年の子ども相応である。〔慣れた場所なら迷わない。〕
- 土地感覚は同学年の子ども以上の能力をもち、めったに迷ったり、まごついたりしない。
- 新しい状況や場所にうまく適応でき、決して迷わない。

関係の判断 大一小、遠一近、重一軽

- いつも不適切な判断をする。
- 初歩的な判断はできる。
- 同学年の子ども相応の判断ができる。〔特に問題はない。〕
- 正確な判断ができるが、それを新しい状況に応用できない。
- 常に正確な判断ができ、それを新しい状況や経験にも応用できる。

位置感覚

- 非常にまごつく。〔左右や東西南北がわからない。〕
- 時々まごつく。〔左右や東西南北が時々わからなくなる。〕
- 同学年の子ども相応である。〔左右や東西南北の理解は特に問題はない。〕
- 方向感覚がよい。
- 方向感覚が非常に優れている。

IV 運動能力

一般的な運動 歩く, 走る, とび跳ねる, 登るなど

- 動作がとても不器用である。
- 同学年の子どもと比べて平均以下である。〔動作がぎこちない。〕
- 同学年の子ども相応である。〔動作がぎくしゃくしない。〕
- 同学年の子ども以上である。〔うまく動作ができる。〕
- 動作が非常に優れている。

バランス 平衡感覚

- バランスをとるのがとても不器用である。
- 同学年の子どもと比べて平均以下である。〔しばしばころぶ。〕
- 同学年の子ども相応である。〔特に問題はない。〕
- バランスを必要とする運動で, 同学年の子ども以上の能力を示す。
- バランスをとるのが非常にうまい。

手先の器用さ はさみを使う, ボタンをかける, 書く, ボールをつかむなど

- 手先がとても不器用である。
- 手先を使うことが同学年の子どもと比べて平均以下である。〔ぎこちない。〕
- 同学年の子ども相応である。〔特に問題はない。〕
- 同学年の子ども以上に器用である。
- 非常に器用である。〔新しい物でも要領よく扱える。〕

V 社会的行動

協調性

- いつもクラスを乱している。〔自分の行動や反応を抑えることができない。〕
- たびたび周囲の者の注意を引こうとする。〔出しゃばってしゃべりたがる。〕
- 同学年の子ども相応である。〔自分の順番を待つことができる。〕
- 同学年の子ども以上である。〔うまく協調できる。〕
- 優れた協調性をもつ。〔大人に言われなくても協調することができる。〕

注意力

- 全く注意を集中することができない。〔非常に注意が散漫である。〕
- ほとんど人の言うことを聞けない。〔たびたび注意がそれる。〕
- 同学年の子ども相応である。〔注意力は特に問題はない。〕
- 同学年の子ども以上の注意力がある。〔注意して聞くことができる。〕
- 大事な部分にいつも注意している。〔注意を長く持続でき、集中できる。〕

手はずを整える能力

- 仕事の手順が理解できない。〔きわめてずさんで、段取りが悪い。〕
- しばしば仕事の手順が悪く、不正確で不注意である。
- 仕事の手順が同学年の子ども相応にできる。〔気をつけてする。〕
- 仕事の手順の整え方は平均以上である。〔仕事の手順を整え、やり遂げられる。〕
- 仕事の手順の整え方に優れ、課題をきちんと仕上げる。

新しい状況に適応する能力 誕生日会、お楽しみ会、遠足、日課の変化など

- 新しい状況では興奮しやすく、適応できない。〔自己抑制が全くできない。〕
- 新しい状況でしばしば過度に反応し、混乱する。
- 同学年の子ども相応に適応している。〔特に問題はない。〕
- 自信をもって、状況を理解し適応する。
- 非常に優れた適応力がある。〔独立性があり、率先して行動できる。〕

社会からの受け入れ

- 友達から仲間に入れてもらえない。
- 友達が我慢して付き合える程度である。
- 同学年の子ども相応に友達から受け入れられ、特に問題はない。
- 友達からよく好かれている。
- 友達から好感をもって受け入れられている。

責任感

- 全く責任をとろうとしない。〔自分に課せられた責任——基本的な生活習慣なども含む——を果たせない。〕
- 責任を避けようとする。〔自分に課せられた役割を受け入れる能力に限界がある。〕
- 同学年の子ども相応に責任がとれる。
- 同学年の子ども以上に責任感がある。〔責任をもつことに満足し、自ら進んでやることができる。〕
- 進んで責任ある役割をとる。〔率先して一所懸命する。〕

課題を理解し処理する能力

宿題、約束ごと、皆で決めたことなど

- 指導しても、やり遂げることができない。
- 指導しても、やり遂げられないことがある。
- 同学年の子ども相応にやり遂げられる。〔特に問題はない。〕
- 同学年の子ども以上にできる。〔指示されなくても、課題をやり遂げられる。〕
- だれもいなくても、いつも自主的に課題をやり遂げられる。

心遣い

- 人の気持ちを理解できず、いつも粗野な行動をとる。
- 友達の気持ちを無視した行動をとりがちである。
- 同学年の子ども相応である。〔特に問題はない。〕
- 同学年の子ども以上の心遣いができる。〔社会的に不適切な行動はほとんどとらない。〕
- いつも心遣いが行き届く。〔社会的に不適切な行動は全くとらない。〕